

2021年度第1四半期連結決算について

(注) 資料内の「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を指します。 「1Q」表記は4月から6月までの期間を指します。

2021年8月26日 株式会社JERA

決算概要

連結損益計算書(億円)

	2021/1Q(A)	2020/1Q(B)	増減(A-B)	増減率(%)
営業収益(売上高)	7,212	5,900	1,311	22.2
営業利益	857	344	513	148.9
経常利益	916	416	500	120.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	640	295	345	116.9
(参考) 期ずれ除き四半期純利益	869	189	680	359.8

連結貸借対照表

	2021/1Q(A)	2020年度末(B)	増減(A-B)	増減率(%)
資産	48,129	40,908	7,221	17.7
負債	29,630	23,287	6,342	27.2
純資産	18,499	17,621	878	5.0
有利子負債残高	17,188	16,132	1,055	6.5
自己資本比率(%)	36.6	41.2	▲ 4.6	

決算のポイント

【売上高】

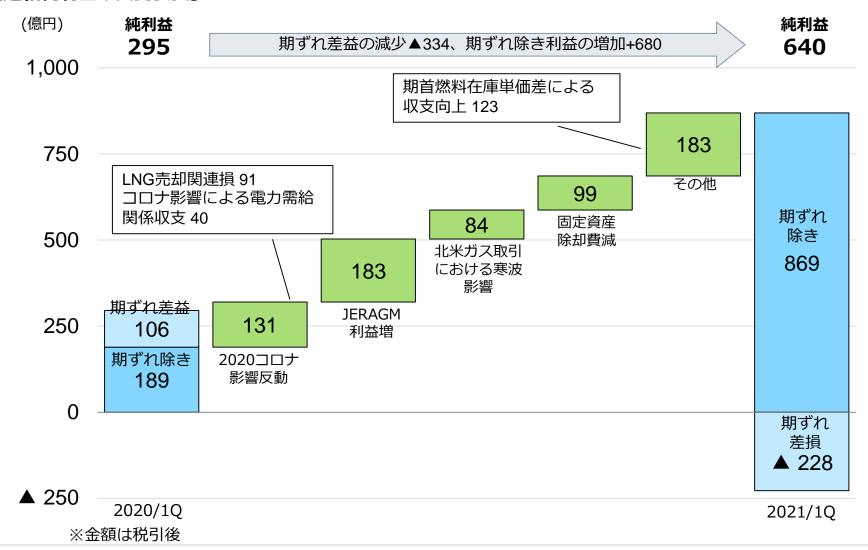
▶ 販売電力量の増加に加え、JERA Global Markets(以下、JERAGM)の 売上増などにより前年同期比1,311億円増(22.2%増)の 7,212億円。

【純利益】

- ▶ 期ずれ除き利益は、前年同期のコロナ影響の反動(+131億円)、 JERAGMの利益増(+183億円)、北米ガス取引における寒波影響 (+84億円)等により、増益となった。

連結純利益

【連結純利益の変動要因】



連結収支比較表

(億円)

				([] [] []
	2021/1Q(A)	2020/1Q(B)	増減(A-B)	主な増減要因
営業収益(売上高)	7,212	5,900	1,311	・販売電力量の増加 ・JERAGM売上増
営業費用	6,354	5,555	798	・燃料費の増加 ・JERAGM費用増
営業利益	857	344	513	
営業外収益	81	95	▲ 13	
営業外費用	23	23	▲0	
経常利益	916	416	500	・期ずれ差損益 ▲464(147→▲317) ・期ずれ除き利益の増 +964 (269→1,233)
法人税等	132	74	57	
非支配株主利益	143	46	97	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	640	295	345	

主要諸元

	2021/1Q(A)	2020/1Q(B)	増減(A-B)
販売電力量(億kWh)	537	475	62
原油価格(JCC) (\$/b)	66.9	32.3	34.6
為替レート (円/\$)	109.5	107.6	1.9

※2021/1Qの原油価格は速報値

連結貸借対照表

(億円)

	2021/1Q(A)	2020年度末(B)	増減(A-B)	主な増減要因
現金及び預金	7,467	6,161	1,306	
有形固定資産	20,564	20,100	464	・国内火力リプレースの進捗
投資有価証券	5,892	5,594	298	
その他	14,205	9,053	5,151	・短期デリバティブ債権増(JERAGM等) +4,305
資産合計	48,129	40,908	7,221	
有利子負債	17,188	16,132	1,055	・借入金+1,055(子会社+1,180)
その他	12,442	7,154	5,287	・短期デリバティブ債務増(JERAGM等)+3,946・退職給付に係る債務増 +449
負債合計	29,630	23,287	6,342	
株主資本	17,276	16,969	306	・株主への配当 ▲334 ・四半期純利益 +640
その他	1,223	651	571	・為替換算調整勘定 +390
純資産合計	18,499	17,621	878	
自己資本比率(%)	36.6	41.2	▲ 4.6	・主にデリバティブ債権・債務が双方増加したことによる低下

セグメント情報

(億円)

	2021	/1Q(B)	2020	/1Q(A)	増減(A-B)		主な純利益(期ずれ除き)
	売上高	純利益 (期ずれ除き)	売上高	純利益 (期ずれ除き)	売上高	純利益 (期ずれ除き)	増減要因
燃料事業※	4,301	470	2,056	156	2,245	313	•JERAGM利益増 +183 •北米ガス取引における寒波影響 +84
海外発電事業	8	13	4	23	3	▲10	・中東・北中米における販売収入減 等
国内火力・ガス事業	5,212	278 (506)	5,354	218 (112)	▲141	59 (394)	・2020コロナ影響反動 +131・固定資産除却費減 +99・期首燃料在庫単価差による収支 向上 +123
調整額	▲2,309	▲ 120	▲1,514	▲102	▲ 794	▲ 17	
連結財務 諸表計上額	7,212	640 (869)	5,900	295 (189)	1,311	345 (680)	

※燃料上流・輸送・燃料トレーディング

2021年度業績見通し

【業績見通し】

JERAGMの利益増加および期ずれ差損増加を見込み、純利益予想を400億円 (期ずれを除いた純利益は1,200億円) に修正しました。 (億円)

		今回予想 (A)	前回(2020/4Q) 予想(B)	増減(A-B)	増減率(%)
糸	范利益	400	700	▲300程度	▲ 42.9
	(内訳)期ずれ差損益	▲800	▲ 400	▲400程度	-
	期ずれ除き利益	1,200	1,100	100程度	9.1

【参考:前年度実績との比較】 (億円)

	今回予想 (A)	2020年度実績 (B)	増減(A-B)	増減率(%)
純利益	400	1,578	▲1,180程度	▲ 74.8
(内訳)期ずれ差損益	▲800	462	▲1,260程度	-
期ずれ除き利益	1,200	1,116	80程度	7.2

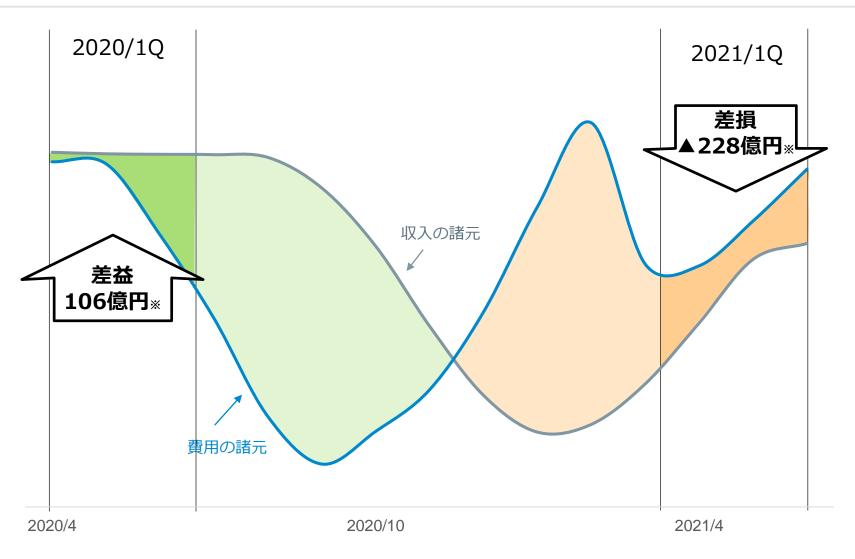
【主要諸元】

	今回予想	前回(2020/4Q)予想
原油価格(JCC) (\$/b)	72程度	62程度
為替レート (円/\$)	110程度	110程度

【参考】2020年度実績 43.4 106.1

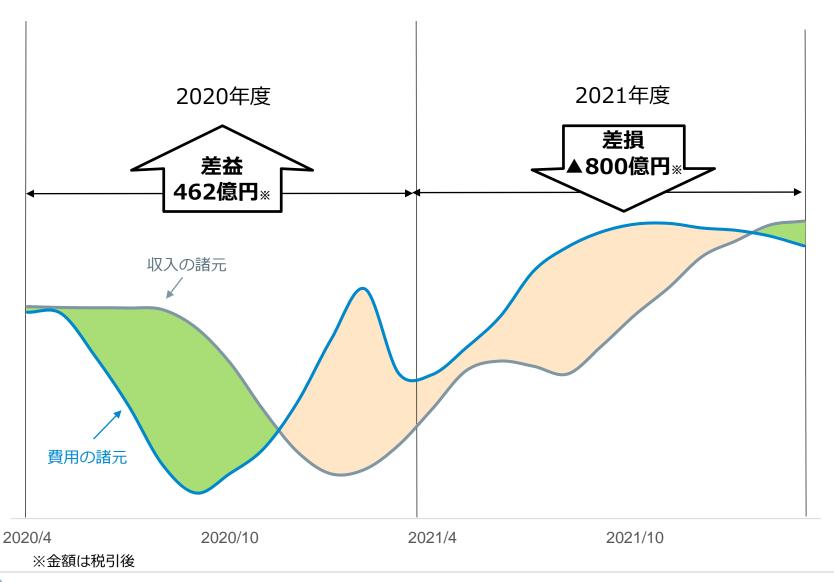
参考情報

期ずれ影響のイメージ (2020/1Q-2021/1Q)



※金額は税引後

期ずれ影響のイメージ (2020-2021見通し)



販売電力量・発電電力量の推移

【販売電力量(億kWh)】

	4~6月
2021年度	537
2020年度	475

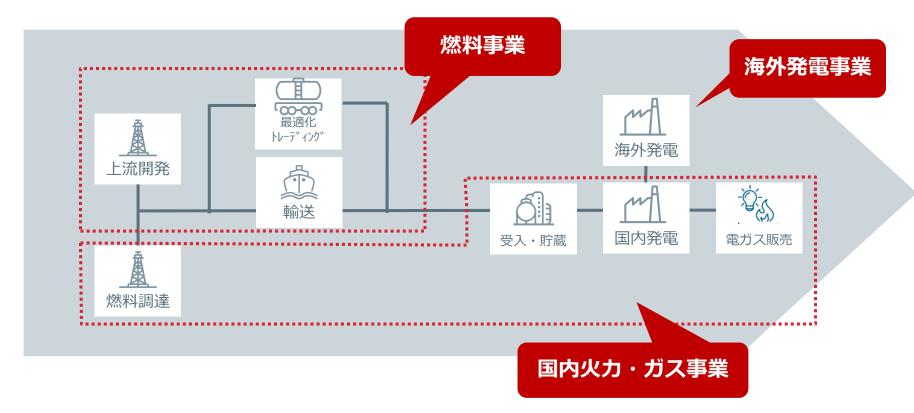
【発電電力量(億kWh)】

		4~6	月
2021年度		534	
	LNG	412	(77%)
	石炭	122	(23%)
	重油・原油	0	(0%)
2020	年度	470	
	LNG	384	(82%)
	石炭	87	(18%)
	重油・原油	0	(0%)

※四捨五入の関係で合計は一致しない

バリューチェーンとセグメント区分

- ▶ 燃料上流(ガス田の開発)から、燃料輸送、燃料貯蔵(燃料基地の運営)、発電、卸売まで、燃料・火力のサプライチェーン全体を保有。
- ▶ セグメントとして、燃料上流事業等への投資、燃料輸送・燃料トレーディング事業を行う「燃料事業」、 海外の発電事業等への投資を行う「海外発電事業」、国内における電力・ガスの販売などを行う「国内火力・ガス事業」に区分している。



格付取得状況

【発行体格付け】

S&P	R&I	JCR
A —	A+	AA –

【短期債(CP)格付け】

R&I	JCR	
a-1	J-1+	

Intentionally Blank

参考情報:経営関連

JERAゼロエミッション2050

JERAゼロエミッション2050

- ▶ JERAは世界のエネルギー問題に最先端のソリューションを提供することをミッションとしております。
- ▶ 当社は、持続可能な社会の実現に貢献するため、ミッションの完遂を通じて、2050年において国内外の事業のCO₂ゼロエミッションに挑戦します*。

JERAゼロエミッション2050の3つのアプローチ

① 再生可能エネルギーとゼロエミッション火力の相互補完

ゼロエミッションは、再生可能エネルギーとゼロエミッション火力によって実現します。再生可能エネルギーの導入を、自然 条件に左右されず発電可能な火力発電で支えます。火力発電についてはよりグリーンな燃料の導入を進め、発電時にCO2を排出 しないゼロエミッション火力を追求します。

② 国・地域に最適なロードマップの策定

ゼロエミッションは、国・地域に最適なソリューションとそれを示したロードマップの策定を通じて実現します。それぞれの国や地域は導入可能な再生可能エネルギーの種類、多国間送電網・パイプラインの有無等、異なる環境におかれているため、国・地域単位でステークホルダーとともに策定します。まずは日本国内事業のロードマップを提案し、他の国や地域にも順次展開をしていきます。

③ スマート・トランジションの採用

ゼロエミッションは、施策の導入を決定する段階で、イノベーションにより利用可能となった信頼のおける技術を組み合わせること(「スマート・トランジション」)で実現します。低い技術リスクで円滑にグリーン社会への移行を促します。

※JERAゼロエミッション2050は、脱炭素技術の着実な進展と経済合理性、政策との整合性を前提としています。当社は、自ら 脱炭素技術の開発を進め、経済合理性の確保に向けて主体的に取り組んでまいります。

JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ

JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ 2030年まで 2050年まで 2040年まで 実現に向けて実行する期間 実現に向けてチャレンジする期間 2030年まで CO₂ CO。排出原単位 ゼロエミ 政府が示す2030年度の長期 **▲20**% エネルギー需給見通しに基づく ッション 当社事業からのCO2 国全体の火力発電からの排出 保有する非効率な石炭火力 ゼロエミッション火力 排出量を実質ゼロへ 原単付と比べて20%減を実現 (超臨界以下) を全台停止・廃止 本格運用開始 実機の石炭火力プラントに 実証試験の結果を踏まえて詳細決定 保有石炭火力全体における おける実証(予定:碧南火力) 発電所リプレースに伴い アンモニア混焼率20%を達成 アンモニア専焼へ移行 技術的課題の解決 (水素キャリアの選定) 2030年代 水素混炼 アンモニア、液化水素、メチルシクロヘキサン (MCH) 等 から技術的・経済的に最適な水素キャリアを選定 実機の発電プラントに おける安定運転の確認 2050年時点で専焼化できない 発電所から排出されるCO2は 再牛可能 洋上風力を中心とした開発促進 オフセット技術やCO2フリー エネルギー 蓄電池による導入支援 LNG等を活用

本ロードマップは、政策等の前提条件を踏まえて段階的に詳細化していきます。前提が大幅に変更される場合はロードマップの見直しを行います。 ※ CO。フリーLNGの利用も考慮しております。

JERA環境コミット2030

JERAはCO。排出量の削減に積極的に取り組みます。国内事業においては、2030年度までに次の点を達成します。

- ➤ 石炭火力については、非効率な発電所(超臨界以下)全台を停廃止します。また、高効率な発電所(超々臨界)へのアンモニアの混焼実証を進めます。
- ➢ 洋上風力を中心とした再生可能エネルギー開発を促進します。また、LNG火力発電のさらなる高効率化にも努めます。
- ▶ 政府が示す2030年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて20%減を実現します。

「JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ」、「JERA環境コミット2030」は、脱炭素技術の善実な進展と経済合理性、政策との整合性を前提としています。当社は、自ら脱炭素技術の開発を進め、 経済合理性の確保に向けて主体的に取り組んでまいります。

JERAゼロエミッション2050:

ゼロエミッション火力に向けた取り組み

アンモニア混焼実証試験

- ➤ アンモニア燃料の導入に向け、NEDOの「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発/アンモニア混焼火力発電技術研究開発・実証事業」の採択を受けた。
- ▶ 碧南火力発電所4号機(発電出力:100万kW)において、 2024年度にアンモニア20%混焼を目指す計画。また、同発電 所5号機(発電出力:100万kW)において、2021年度に材質 の異なるバーナを用いて小規模試験を実施する予定。



実証事業を行う碧南火力発電所

CO2排出量/排出原単位

2019年度 当社事業における排出量合計 **16,165**万t-CO₂



JERAゼロエミッション2050:

洋上風力の開発および再工ネ開発目標について

洋上風力開発状況 (2021年6月末時点)

▶ 下記4地点で国内洋上風力開発に向けた取り組みを実施中。

※ 公募上の発電出力であり、当社計画出力とは異なる

開発地点	発電出力	開発状況		
北海道石狩湾沖	最大520MW	・環境影響評価配慮書手続きを完了		
秋田県能代市、三種町 および男鹿市沖	415MW*	・洋上風力発電事業の事業拠点「秋田事務所」を開設(2021年4月) ・J-Power、Equinorと共にSPCを設立し、秋田県沖一般海域での開発に向けた		
秋田県由利本荘市沖	730MW*	公募に応札(2021年5月)		
青森県つがる市沖南部	最大600MW	・環境影響評価配慮書手続きを完了		

アジアの洋上風力先進地の台湾において、開発段階の異なるプロジェクトに同時参画しノウハウを蓄積中。

	発電容量	基数	商業運転開始	事業パートナー
フォルモサ1	128MW	22基	2019年12月※1	エルステッド社、マッコーリー社、スワンコール社
フォルモサ2	376MW	47基	建設中	マッコーリー社、スワンコール社
フォルモサ3	2,004MW ^{※ 2}	未定	2026~2030年 (目標)	マッコーリー社、EnBW社

再工ネ開発出力状況・目標



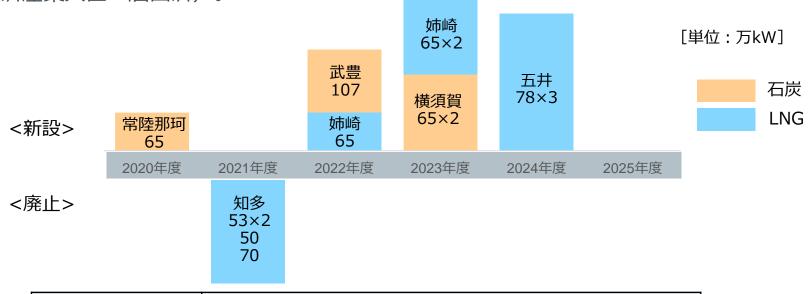
国内火力・ガス事業セグメント: 国内火力リプレースの進捗状況

リプレース計画

▶ 常陸那珂、姉崎、武豊、横須賀、五井の5地点において、最新鋭の高効率火力発電設備へのリプレースを推進。常陸那珂共同火力1号機は2021年1月に運開済。

➤ 知多火力は1~5号機の廃止を予定。7、8号機は新設を検討中(環境影響評価方法書を、

経済産業大臣へ届出済)。



開発地点	開発状況
姉崎	2020年2月に本格工事着工。工事進捗率41%
横須賀	2019年8月に本格工事着工。工事進捗率31%
五井	2021年4月に本格工事着工。工事進捗率12%
武豊	2018年4月に本格工事着工。工事進捗率89%

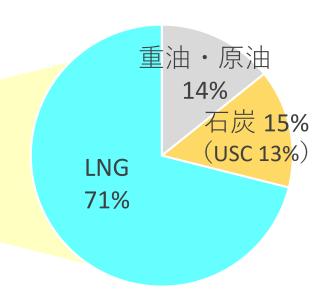
※2021年6月末時点

国内火力・ガス事業セグメント: 当社の電源構成

- ✓ 当社の電源構成は、CO₂排出の少ないLNGが大きいのが特徴。
- ✓ 石炭においては比較的CO₂排出の少ない超々臨界圧発電方式(USC)が占める割合が大きいことも特徴。また、2030年までに非効率な発電所を全台を停廃止する *1。

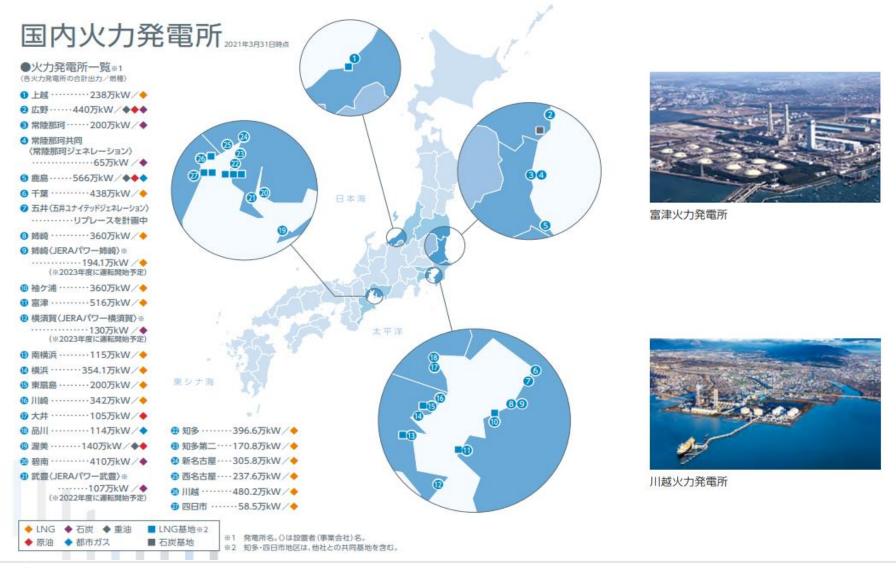
当社の電源構成※2

燃料種別	出力(発電端)
石炭 (USC再掲)	1,032万kW (892万kW)
LNG*3	5,007万kW
重油・原油	1,005万kW
合計	7,044万kW



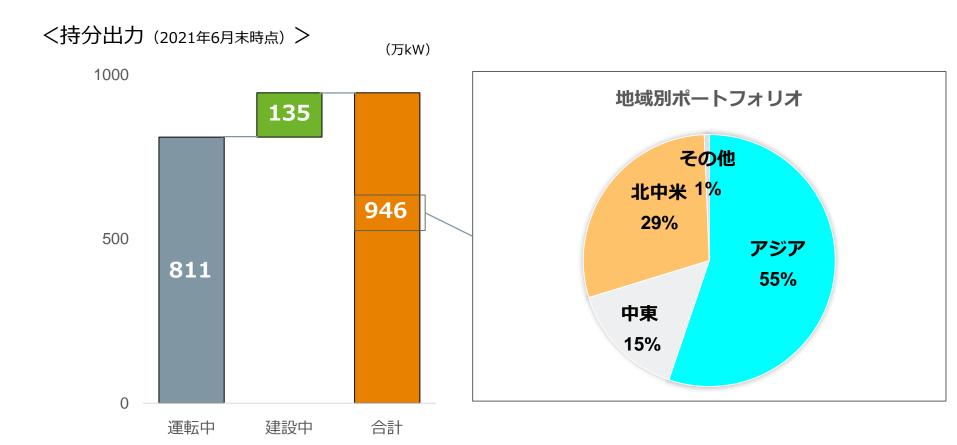
- ※1 2020年10月13日プレスリリース「2050年におけるゼロエミッションへの挑戦について」 https://www.jera.co.jp/information/20201013 539
- ※2 2021年3月末時点。建設中含む。共同火力保有分は除く
- ※3 LPG・都市ガス含む

国内火力・ガス事業セグメント: 国内火力発電所一覧



海外発電事業セグメント:
 海外発電事業のポートフォリオ

- ▶ 世界各国のプロジェクトで培った経験を活かし事業を展開。持分出力は946万kW (建設中を含む)。
- ▶ それぞれの地域における市場のニーズに合わせた戦略で開発拡大を目指し、バランスの取れた地域ポートフォリオを構成。



海外発電事業セグメント: 海外発電事業案件一覧①

(2021年6月末時点)

				(20	21年6月末時点)
国名	プロジェクト名	出資比率	発電出力	燃種	備考
台湾	彰濱/豊徳/星元 ガス火力 IPP	19.5%~22.7%	1,960 MW	ガス火力	
台湾	フォルモサ1 洋上風力	32.5%	128 MW	洋上風力	
台湾	フォルモサ2 洋上風力	49.0%	376 MW	洋上風力	建設中
ベトナム	フーミー ガス火力 IPP	15.6%	715 MW	ガス火力	
インドネシア	パイトン 石炭火力 IPP	14.0%	2,033 MW	石炭火力	
インドネシア	チレボン2 石炭火力 IPP	10.0%	1,000 MW	石炭火力	建設中
フィリピン	ティームエナジー	10.0%~50.0%	3,592 MW	石炭・ガス火力	
タイ	EGCO社	12.3%	6016MW	石炭・ガス火力 / 再エネ	建設中含む
タイ	ATバイオパワー 籾殻発電	34.0%	20 MW	バイオマス	
タイ	ラチャブリ ガス火力 IPP	15.0%	1,400 MW	ガス火力	
タイ	工業団地コジェネレーション	19.0%~23.8%	360 MW	コジェネ	
タイ	太陽光発電	49.0%	31 MW	太陽光	
タイ	風力発電	5.0%	180 MW	陸上風力	
インド	ReNew社	8.0%	8 <mark>,</mark> 271MW	太陽光 / 陸上風力	建設中含む
	サミット・パワー社	22.0%	2,419 MW	ガス火カ	建設中含む
バングラデシュ	メグナハット・ガス火力IPP	49.0%	718MW	ガス火力	建設中

海外発電事業セグメント: 海外発電事業案件一覧②

(2021年6月末時点)

				(202)	L年0月末時点 <i>)</i>
国名	プロジェクト名	出資比率	発電出力	燃種	備考
U.A.E.	ウム・アル・ナール ガス火力 IWPP	20.0%	2,200 MW	ガス火力	
カタール	ラスラファンB ガス火力 IWPP	5.0%	1,025 MW	ガス火力	
カタール	ラスラファンC ガス火力 IWPP	5.0%	2,730 MW	ガス火力	
カタール	メサイード ガス火力 IPP	10.0%	2,007 MW	ガス火力	
カタール	ウム・アル・ホール ガス火力 IWPP	10.0%	2,520 MW	ガス火力	
オマーン	スール ガス火力 IPP	19.5%	2,000 MW	ガス火力	
メキシコ	バジャドリド ガス火力 IPP	50.0%	525 MW	ガス火力	
メキシコ	ファルコン ガス火力 IPP	20.0%	2,233 MW	ガス火力	
アメリカ	テナスカ ガス火力 IPP	11.1%~17.5%	2,950 MW	ガス火力	
アメリカ	キャロルカウンティ ガス火力 IPP	20.0%	702 MW	ガス火力	
アメリカ	クリケットバレー ガス火力 IPP	38.0%	1,100 MW	ガス火力	
アメリカ	リンデン ガス火力 IPP	50.0%	972 MW	ガス火力	
アメリカ	コンパス ガス火力 IPP	50.0%	1,123 MW	ガス火力	
英国	ガンフリートサンズ 洋上風力	25.0%	173 MW	洋上風力	
英国	蓄電池(Zenobe)	9.9%	73 MW	_	

燃料事業セグメント: 燃料事業の概要

【燃料上流・輸送事業】

▶ 世界最大級のLNG取扱規模(2020年度:約4,000万トン※)を活かし、LNG上流プロジェクトに参画することで、調達・トレーディングに資する情報やEquity LNGを獲得。また、上流権益や輸送船を保有することで安定的かつ柔軟性が高く、競争力のある燃料供給に貢献。※JERAグループ全体

燃料上流プロジェクト

プロジェクト名	所在地	LNG生産/ 液化能力	当社 出資比率※
ダーウィンLNG事業	豪州	約370万t/年	6.13%
ゴーゴンLNG事業	豪州	約1,560万t/年	0.417%
イクシスLNG事業	豪州	約890万t/年	0.735%
ウィートストーンLNG事業	豪州	約890万t/年	か、ス田鉱区:10% LNGプラント:8%
フリーポートLNG事業	米国	約464万t/年	25%

[※]ウィートストーンLNG事業は、当社が出資するPE Wheatstone社を通じた出資比率

【燃料トレーディング事業】

- ▶ 世界最大級の燃料取扱規模を梃子にしたアセットバックトレーディングを行う。
- ▶ シンガポール、英国、オランダ、米国、日本に拠点を持つJERAGMを中心に、約300名が緊密に連携し、サプライチェーン全体の最適化に貢献。